

# わたしの好きな よりの

No.148

皆さん、わたしを覚えていますか？

わたしは、一昨年の秋、母親とはぐれ、宗像神社の木に登っていたところを発見され捕獲された熊です。その節はたいへんお世話になりました。皆さんのおかげで、けがをすることもなく、現在の住み家さいたま市の「大宮公園小動物園」に送られ、寄居町にちなんだ「ヨリー」という名前をつけてもらい元気にすごしています。

なかなか木の上から落ちなかったことから、受験生には「縁起がよい」と大変人気があり、遠くからわざわざわたしを見にきてくれる人もいて、今では動物園一の人気者です。



## <わたしヨリーです>

当時は体長が60cmくらいの子熊でしたが、今では倍以上になりすっかり大きくなりました。夏休みも始まりましたので、皆さんで大きくなり人気者になったわたしをぜひ見に来てください。



## わが町の



No.17

### 山椒魚(サンショウウオ)の達人



中里邦夫さん(牟礼)

山椒魚の名は、オオサンショウウオが身を守るために頭や背中から分泌する白色の液体が、山椒に似た香りがすることに由来しています。

サンショウウオには多くの仲間がありますが、埼玉県には、このうちトウキョウサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

クロサンショウウオが生息しています。大きさはいずれも体長13~16cmで、生息場所や体の模様などから、それぞれの名がつけられています。トウキョウサンショウウオは茶褐色で肌がぬるぬるしていますが、目玉が飛び出していて、愛嬌がある丸い顔をしています。

トウキョウサンショウウオは、一般に泉などの水辺に生活していて、寄居町では末野、折原、鉢形、男衾などに生息しています。3月下旬ごろ、一匹のサンショウウオが勾玉状の卵のう(袋)を2個、水中の枯葉や枝に産みつけます。1つの卵のうには、ゼリーに保護された30個くらいの卵があり、受精卵60個から20

匹くらいの幼生が生まれます。4月上旬に卵のうから出て泳ぎ回り、水生昆虫やミミズなどを食べ、2cmくらいに成長します。酸素は鰓(えら)や体(皮膚)でとります。5月上旬に水から出て、主に夜歩き回り、餌をあさります。自然はまったく神秘的なものです。6月になるともう一人前です。

分類学上は、背骨があるので脊椎動物とされます。卵や幼生は水の中で、大きくなると陸上で生活を営むので両生類と称されます。

秋山区にあるサンショウウオの里では、トウキョウサンショウウオ、ハコネサンショウウオがみられます。どちらも貴重な動物たちですので大切にしてください。



トウキョウサンショウウオとその卵

